

棚田、段々畑、曲がりくねった道
山懐の斜面に建ち並ぶ家
心地良い山風が吹く谷

裏路地探険

急峻な坂道・山間の里を歩く／美方町



新屋～南部高原周辺

鉢伏山の西側、標高380～420mにあり、南部高原から赤倉山にわたる300町歩の広大な山林を有する山間の里。わさびの栽培や数軒の但馬牛を飼育する農家があり、戸数は64軒、急峻な斜面に民家が集中し、独特の家並みをつくり出している。また、高原にはミカタスノーパーク、尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」、新屋地区が管理する全国しゃくなげ公園やコテージ村が整備されている。

鉢伏山から高丸山小代越え、赤倉山、氷ノ山へと続く山並みの懐、国道482号線から少し登ったところにある新屋の集落を歩く。県道から林道、町道と整備された新屋の集落を中心に、南部健康高原(中サバ・備)と熱田、赤倉山の尾根まで、約300町歩と広大な山林を有する山間の里だ。集落は標高380～420mにあり、眼下には、ゆるやかな孤を描く山々と美方の町並みがひろがる。急峻な斜面に、下から上へ続くいくつもの路地があり、勾配を緩くするためか、うねった路地が多い。建物を横に見ながら坂道を登ると、少しずつ変化した角度で上から下へと景色が送られてい

く。振り返ると麓の波、次にはまた見上げるような高い石垣の家、あらゆる方向へ視界が変化する。坂道を登りきった熱田神社のある広場は、新屋の集落を見下ろす絶好のスポット。養蚕農家の面影を残す四角い窓枠の家、各々の紋が刻まれた蔵、庭には大きな松や柿の木が植えられた家が多い。屋根は雪が深いため比較的瓦屋根が少なく、雪止めを施している。

新屋の歴史をたどると熱田神社を祀る縁や地名の由来にさかのぼる。伝説によると、尾州(尾張)熱田の大宮司の子孫が、居を変えながらこの谷へ移り住み、開拓したと伝えられている。室町時代には、金や銀・銅・鉄が産出される山として栄えていたが、1540年、名ケ谷の洪水のため山崩れがあり、全てが押し流されてしまい、新たに家を立て、村を作り直したことから、「新屋」という地名になったと言われている。

山に暮らし、数十年前までは、養蚕や但馬牛の飼育も盛んに行われ、冬は、酒造りなど出稼ぎに出かける人が多かったが、今ではいずれも少なくなっている。しかし、一方では、生花やわさび



高い石垣の上に建てられている家



お堂の天井に回り舞台の仕掛けが収納されている



八反滝にも足をのぼして



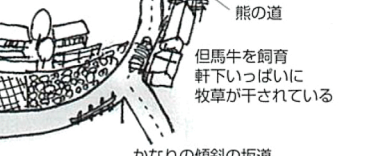
熊が毎年食べに来るという梨の木



急な斜面の坂道を登ったり、降りたり



熊の道



かつての新屋農業協同組合家屋



山からの湧き水に冷やしてあるやかん



わさびの苗床



お土産にもなったわさび漬、元気なおかあさんたちの手づくり

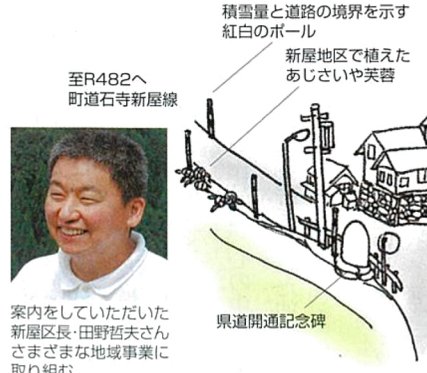


わさびの苗床

の栽培にも盛んに取り組んでいる。また、起業家が多く、粘り強さが新屋の気質となっている。新屋の人たちはよく、「ちよっと上の山まで行ってくる」という。かつて盛んに牛を放牧し、牧草を刈っていた山。広大な山林に豊かな自然、山には熊も生息する。時折、里へ降りてくることもあり、熊の道と呼ばれる歩くルートが決まっている。驚かせずに山に帰って行くのを見守る。昼間でもキツネや狸が人里によく姿を見せる。現在は道路状況も良くなり、冬はスキー場となるミカタスノーパ

ークまでは車で約3分。南部高原へは約10分、尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」と新屋地区が管理する全国しゃくなげ公園やコテージ村が整備されている。眺めは爽快、山の稜線がすぐそこにあり、同じ目の高さには、対面の山の頂と向かいあう。棚田に、段々畑、うねった坂道、

●裏路地探険隊員募集
11月25日(土) 山東町探険
山陰道として栄えた宿場町の面影を残す町並みを歩く
*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、ハガキでお申し込みください。



案内をいただいた新屋区長・田野哲夫さん、さまざまな地域事業に取り組む